

高浜市立港小学校で防災講座を行いました

令和8年7月15日（水）、高浜市立港小学校で5年生46名に防災講座を行いました。

講座では、高浜市で被害のあった昭和28年台風13号、伊勢湾台風、東海豪雨など過去の水害や線状降水帯、新たな防災気象情報について学習しました。東海豪雨では、学校近くを流れる稗田川（ひえだがわ）沿いに浸水しています。

先週、市の方からハザードマップについて学習したばかりだそうで、多くの児童が自宅の想定浸水深を知っていました。伊勢湾台風や東海豪雨についてもほとんどの児童が知っていて、防災に関する学びが深いことが伺えました。

また、浸水時のドアにかかる水圧実験やペットボトルを使った竜巻・雲をつくる実験を行いました。

児童からは「数十cmでドアが開かなくなったり、歩けなくなるのは怖いと思った。」との感想があり、先生から児童に向けて、「今回学んだことをお家の人にも伝えてほしい。」「いざ大雨が降った時に実行に移してください。」と呼びかけがありました。

今回の講座が、児童たちの防災意識向上に繋がり、将来「守られる人から守る人」になって頂けることを期待しています。なお、講座の様子は中日新聞に取材頂きました。



浸水時のドアにかかる水圧実験